第３章２　「個別の指導計画」の活用

「個別の指導計画」は，本人や保護者，担任それぞれの願いを集約し，具体的な指導目標や指導内容，指導方法を明確にした計画表です。

長野県では，**「教育課題個人表（Ａ表）」「指導内容の選択・組織（Ｂ表）」「年間指導計画（Ｃ表）」**をセットとして「個別の指導計画」としています。

「個別の指導計画」の様式は，特に決まったものはありません。

長野県総合教育センターホームページから様式の例をダウンロードすることができます。

担任が替わった場合は，事前に，引き継いだ「個別の指導計画」に目を通しておきましょう。

（１）「個別の指導計画」の作成の手順の例

「教育課題個人表（Ａ表）」

実態の把握

↓

可能性の芽をとらえる

↓

教育課題の設定

↓

指導の方向を決め出す

↓

「指導内容の選択・組織（Ｂ表）」

①指導内容の選択

↓

②指導内容の組織

↓

「年間指導計画（Ｃ表）」

１年間の取り組みを計画することにより，見通しをもった指導や支援ができるようにしていきましょう。

「個別の指導計画」を見返す機会を計画的に設け，随時，加除・修正していきましょう。

Ａ表　作成のポイント

・年度の初めの４月に作成しましょう。
・作成にあたっては，原学級や教科担任などかかわりのある教員や，保護者・本人の意見も参考にして，教育課題や支援の方向などを決め出しましょう。
・自立活動における指導目標も設定しましょう。
・初めて担任する児童生徒の場合は，順次見返していくことも必要です。

Ｂ表　作成のポイント

・学習指導要領を参考にしながら作成しましょう。
・教科等における目標を明らかにして，具体的な指導内容を記入しましょう。
・自立活動においては，６区分 26 項目の中から選定した必要な項目を相互に関連づけて，具体的な指導内容を設定しましょう。

Ｃ表　作成のポイント

・１年間の指導計画を立てましょう。
・各教科等を合わせた指導をしている場合は，生活単元学習や日常生活の指導，遊びの指導等を記入しましょう。
・各教科等の指導をしている場合には，教科や領域で行う大まかな内容を記入しましょう。

（２）「個別の指導計画」の記入例

ア　自閉症・情緒障害特別支援学級（中学校）

ａ「教育課題個人表（Ａ表）」　　〇〇中学校　１年　氏名　ユキオ

障がいの状況や程度，医師の所見で配慮する点や専門機関からのアドバイス

〈生育歴，諸検査，連携の記録など〉

生育歴：

5 歳　広汎性発達障害・・〇〇病院，
△Ｄｒ（小児科）

小学校３年　自情障学級入級

家庭環境：

・父，母，弟，妹，祖父母の７人家族

諸検査：

・ＷＩＳＣ－Ⅳ

全検査　言語理解　知覚推理

ﾜｰｷﾝｸﾞ ﾒﾓﾘｰ　処理速度

平成〇〇年〇月

連携の記録：

・「〇〇の教室」（５歳～小学校５年）で，SST を学ぶ。

・小学校５年の時に，登校しぶりがあった。

・年に一回，〇〇病院，△Ｄｒの診断

特徴的だと思われる観点に重点を置く，行動できるときの状況や条件も含める

〈日常生活の姿〉

基礎的生活習慣　・身の回りのことは，自分でできることができる。

学習面　・自情障学級で学ぶと，国語や算数の課題には，集中して取り組むことができる。

・問題の解き方のルールが明確になると，進んで学習に取り組むことができる。

・新出漢字は，「男」は「田」と「力」など，知っている部分ごと色分けすると覚えることができる。

・パソコンを使うと，作文を書くことができる。

生活行動面　・原学級の[illegible]ることで，[illegible]

行動や姿の裏付けになりそうなもの

・友達とのけんかや[illegible]の変化で気持ちがたかぶった時は，自分でスケジュール表を書き直すなどして，落ち着くようにしている。

興味･関心　・空いた時間には新聞のスポーツ欄を読んでいる。

自立活動の区分，項目の視点を意識しながら実態を把握する

ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ　・友だちの[illegible]ることができることが増えてきている。

就学前や幼保小などでどのように育ってきたのか，育ちに影響を及ぼしていると思われること，検査の数値や，そこから読み取れるもの

〈可能性の芽〉

・課題を明確に示す（終わりをはっきりさせること），落ち着いて取り組むことのできる環境を用意する，個に合った課題を用意するなどで，学習や活動に集中して取り組むことができる。

・身近な人（部活動の友だちや自情障学級担任）の中で対人関係を学ぶことにより，[illegible]の生徒や先生とも相手の気持ちを意識して活動することができそうである。

よいところ，得意なこと，伸びてきているところ

できるための条件や状況，必要な支援情報

〈本人，教師，保護者の願い（目標，将来の姿）〉

本人：

・スポーツや勉強をがんばりたい。

・友達とトラブルなく生活したい。

保護者：

・登校を渋ることが多かったので，休まずに登校してほしい。

・友達とけんかをせずにかかわってほしい。

教師：

・多くの人と仲良くかかわりが持てるようなスキルを身につけてほしい。

・安定した学校生活を送ってほしい。

・学年に応じた学習を身につけていってほしい。

卒業後の姿：

・IT 関係の仕事に付きたいという将来の[illegible]ージ」，〇

それぞれの願いを踏まえ，どのような社会的自立の姿を目指しているのかを示す

〈教育課題〉

①　身近な友達との付き合い方のスキルを身につける。

およそ１年後を展望した課題を設定する

②　活動や学習の見通しをもち，安定した学校生活を送ることができる。

将来の自立に向けて，今伸ばしていきたい面，意欲的にかかわることのできる内容を大切にする

〈支援の方向〉

①　身近な友達とのかかわり方について，ソーシャルスキルトレーニングなどで学び，身近な小さな集団から，クラスや学年などの大きな集団で活用できるように，徐々に広めていく。

②　解き方の手順が複雑なものは，手順表を示し，順を追っていけば解くこと[illegible]

できるための条件を生かしながら，具体的な場面や指導・支援の方法などについて，自分の力で達成していけるような「できる状況づくり」を大切にする

「個別の指導計画」を作成したら，チェックリストを使って見返してみましょう。

「個別の指導計画」作成のチェックリスト

チェック項目	チェック
ア　肯定的な書きぶりになっているか，どこまでできているかの視点で書いているか。 （例：～できる，～する→○，～できない→×）	
イ　得意な面・その子の強みをとらえているか。 （例：記憶することが得意。絵を書くことが得意）	
ウ　「こうすれば（状況や条件）」をとらえているか。 （例：モデルとなる姿があれば～，カードによる提示があれば～）	
エ　肯定的な教育課題になっているか。 （例：～をする・になる→○，～しない。やらない→×）	
オ　一つの文の中は，一つの目標になっているか。目標が絞られているか。 （例：～書く。→○，書いたり，読んだりする。→×）	
カ　１年後の姿が表現された教育課題になっているか。 （例：手を繋いで目的地まで移動できる→○，できることが増える→×）	
キ　基準が示されているか。 （例：活動の終わりまで，15分間，１日１回は）	
ク　「指導の方向」が「（指導者が）いつ・どこで・何を・どうする」という具体的な「てだて」の表記になっているか。「てだて」の量は適当か。（例：朝の会に一日の予定黒板に写真カードを示し，読み上げながら順番に貼っていく）	
ケ　本人の願い・家族の願いを加味しているか。 （例：２０分は身体を動かしたい。自分から動いてほしい。）	
コ　指導計画作成時に作成者以外の人の意見を聞いたか。 （例：本人・保護者，原学級担任，教科担任などの意見を聞く）	

こんな見返しをしてみましょう。

○　作成者以外が，児童生徒名を伏せて「教育課題」を読んでも，その子の名前や姿が浮かぶ書きぶりであるかどうかを見返しましょう。

○　作成後見直すには「教育課題→可能性の芽→日常生活の姿」のように書式の矢印をさかのぼるようにして筋が通っているか読み返すとよいでしょう。

子どもの伸びてきているところに視点をあて，肯定的・共感的に記入しましょう。

b「指導内容の選択・組織（B表）」　　〇〇中学校　１年　氏名　ユキオ（自情障学級在籍）

各教科等	指　導　内　容	支援の方向	評　価
国　語	・教科の年間指導計画による（教材や課題の工夫により，通常学級と同内容での学習が可能）。 ・１年生の教科書の読み，読解。 ・１年生で学ぶ，漢字の習得。（読み書き） ・自分の思いを文章に表す。	・本時に行う学習活動を，ホワイトボードで示しておく。 ・事前に読むページを確認しておく。 ・新しい文を読む場合は，教師と一緒に新出漢字の読み方を確認する。 ・漢字分解プリントを使って，新出漢字を練習する。 ・授業の中で長文を書く場合は，パソコンを使い文字に表すようにする。 ・「じれったい」「もどかしい」などの思いをあらわす言葉のカードを用意しておき，その時の気持ちをカードから選んで，文章の中で使うことができるようにする。	・授業のはじめに本時に行う学習活動を示したことにより，見通しを持ち，課題に集中して取り組むことができた。 ・今までに習った漢字は，ほとんど読むことができる。幾つかの読み方がある漢字に出合うと「何と読むのですか？」と質問し，正しい読み方を伝えると，次回からは正しい読み方ができた。 ・画数の多い漢字でも，知っている部分に分解して覚えているので，正しい書き順で書くことができた。 ・漢字を書くことは得意ではないが，パソコンで文字を入力することにより，文字を書くことに対しての抵抗が少なくなった。また，思いをあらわすカードからその時の自分の気持ちを探すことにより，文章の中にその時の思いを加え，自分の表現したいことを長文で表すことができた。
社　会	・教科の年間指導計画による。（交流及び共同学習）	・板書の内容があらかじめ書かれており，必要なところは空欄になっていて書き込むことのできる，学習プリントを用意する。	・学習プリントをノートに貼り，板書を見ながら空欄をうめることができた。また，自分で必要と思ったところには，蛍光ペンで線を引きながら，学習に集中して取り組めた。
数　学	・教科の年間指導計画による（教材や課題の工夫により，通常学級と同内容での学習が可能）	・１時間の流れを書き，ホワイトボードで示しておく。 ・複雑な思考が必要な場合は，課題解決するための手順を示した手順表を用意する。	

指導内容に加え，支援の方向や評価の欄を入れることにより，日々の授業や活動の評価，通知票などにも生かすことができます。形式を工夫していきましょう。

自立活動	・友達とトラブルが回避できる接し方を学ぶ。［ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ（4）］［人間関係の形成（3）］ ・安定した学校生活を送ることができる。［心理的な安定（3）］	・友達との話し方・接し方について，「自立活動」の時間に，ＳＳＴのビデオを視聴した後，担任や自情障学級の友だちを相手にしたロールプレイにおいて練習をする。 ・当日と次の日の日課を側面の黒板に提示できるようにして，自分で予定を確認しながら教科名の書かれた磁石をはり，先の見通しを持つことができるようにしていく。	・自情障学級の友だちとの学校生活において，ＳＳＴの時間に学んだことを意識し，優しい言葉づかいで話すことができるようになってきており，言い争うことなく生活できた。

ポイント

・自閉症・情緒障害特別支援学級においては，通常の学級と同じ教育課程をベースとして特別の教育課程編成を行うことになります。

・自閉症・情緒障害特別支援学級では，「各教科等を合わせた指導」（生活単元学習，日常生活の指導，遊びの指導，作業学習）は適用されません。（⇒第２章３　参照）

・学習上または，生活上の困難の改善・克服を目的とした「自立活動」を取り入れることが必要です。

イ　知的障害特別支援学級（小学校）

a「指導内容の選択（B―①表）」　　○○小学校　３年　氏名　ケイコ

各教科等	指　導　内　容
国　語	・友だちと一緒に簡単なセリフのある劇をする。<小２－13> ・促音，長音などの含まれた語句や短い文を正しく読む。<小３－20> ・片仮名やよく見られる簡単な漢字を読む。<小３－21> ・簡単な語句や短い文を平仮名で書く。<小３－24>
社　会	・誕生会や学級会などで，簡単な役割をする。<小生２－５－１> ・教師と一緒に近くの駅や消防署などに行き，関心をもつ。<小生１－11－３
算　数	・簡単な数の範囲で数えたり，数字を読んだり，書いたりする。<小３－１> ・大きさ，長さ，重さ，かさを比べる。<小３－４> ・簡単な生活の処理を図表や○×などの表で示す。<小３－８>

知的障害特別支援学級では，「各教科の下学年の内容」や「知的障害特別支援学校　各教科目標及び内容・具体的内容（特別支援教育教育課程学習指導手引書　共通・連携編　P89～）」等を参考に，指導内容を決め出すことができます。

子どもと共に振り返る時間をとったり，通知表として活用して保護者懇談会の際に使用したりしましょう。

b「指導内容の組織（B―②表）」　　○○小学校　３年　氏名　ケイコ

指導場面	具体的指導内容	支援の方向	評　価
生活単元学習 「はらぺこあおむし」の劇をしよう	・簡単な漢字を含んだ台本を読む。 ・あおむしが食べた果物の数を一緒に数える。 ・小道具（果物のレプリカ）を作る。	・初めて読む漢字には，送り仮名をつけておき，読み方や漢字の意味を一緒に確認する。 ・自分でつくった果物のレプリカを用意しておき動かしながら数えるようにする。 ・めくり式手順表を用意する。 ・新しい器具を使うときに正しい使い方の書かれた紙を基に，一緒に確認する。	・初めは拾い読みで読んでいたが，毎日繰り返し読むことにより，ふり仮名がない台本の漢字を読むことができるようになった。 ・果物のレプリカを動かしながら，１～10を声に出し，数えることができるようになった。 ・めくり式手順表を使いながら，マジックで線をなぞる，絵の具で色を塗る，線を切り取るなどの活動に，自主的に取り組む姿が見られた。

ポイント

・必要に応じて，「各教科等を合わせた指導」（生活単元学習，日常生活の指導，遊びの指導，作業学習）による学習を行えます。

・「自立活動」については，「日常生活の姿」や「教育課題」の流れを受けて，６区分26項目（**「特別支援教育教育課程学習指導手引書　特別支援学校編」　P115～**）の中から選定した項目を，相互に関連づけて具体的な指導内容として設定します。

・通常の学級の児童生徒と共に活動する場合は，「交流及び共同学習」として位置づけます。通常学級で活動する場合のねらいや支援については，特別支援学級担任が原学級担任と事前に打ち合わせをしておきましょう。（⇒第３章１（３））

c「年間指導計画　（C表）」　　○○小学校　ひまわり組

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
行事	入学式	春の遠足	音楽会	特別支援学級交流会①	水泳参観	運動会	社会見学 作品展	マラソン大会	特別支援学級交流会②	大縄跳び大会	学芸会	卒業式
生活単元学習	「はらぺこあおむし」の劇をしよう 楽器を使って表現しよう				今までの活動を立体で表現しよう	畑の野菜でお料理をしよう		体を動かし，きたえよう		「大きなカブ」の劇をしよう		
国　語	◇台本を読む　◇手紙を書く ◆漢字練習と読書（通年）					◇野菜販売のチラシを書く		◇料理のレシピを書き写す		◇台本を読む　◇招待状を書く		
算　数	◇数の学習 ◆計算練習（足し算・引き算）（通年）					◇買い物の計算		◇物の量を量る				
理　科	◇生き物の観察（昆虫） ◇音の実験					◇生き物の観察（植物）			◇体のしくみ			
社　会	◇地図を見ながら地域を散策する						◇商店について調べる					
自立活動	ケイコ：聞かれたことに正しく答え，分からない時は質問する。[コミュニケーション（５）　人間関係の形成（２）] マユミ：自分から挨拶する。聞かれたことに答える。[コミュニケーション（５）　人間関係の形成（２）]											

ポイント

・行事に関連した「生活単元学習」は，行事の時期に並行して記入しましょう。

・「各教科等を合わせた指導」をしている場合は，生活単元学習，日常生活の指導，遊びの指導などの単元名や内容を記入しましょう。

・「教科別領域別の指導（各教科等の指導）」をしている場合は，教科名や領域名，および学習内容を記入しましょう。「自立活動」も，１年間の見通しを持って行いましょう。

・基本的には，個別に年間計画（C表）を作成します。しかし，学級の人数が少ない場合は，１枚にまとめてもよいでしょう。

・「生活単元学習」の単元のめあて（全体・個別）や活動計画などを，「学級だより」で保護者や校内の教員に発信していきましょう。

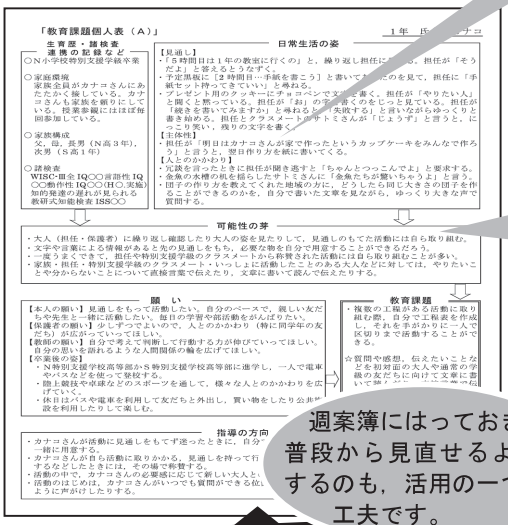
（３）「個別の指導計画」を活用した授業づくり

「個別の指導計画」を生かした授業構想と評価をしましょう

「個別の指導計画」を作成すると，児童生徒の理解が深くなり，支援の方向が明確になります。「個別の指導計画」を基に授業を行い，その後，教師の支援を見返し，更に児童生徒の力を伸ばしていきましょう。

■「個別の指導計画」から評価までの流れの例（ＰＤＣＡサイクル）

Plan 個別の指導計画


「教育課題個人表（Ａ）」　1年　氏　カナコ

生育歴・諸検査　連携の記録など

○Ｎ小学校特別支援学級卒業

○家庭環境
家族全員がカナコさんにあたたかく接している。カナコさんも家族を頼りにしている。授業参観にはほぼ毎回参加している。

○家族構成
父，母，長男（Ｎ高３年），次男（Ｓ高１年）

○諸検査
WISC-Ⅲ全 IQ○○言語性 IQ○○動作性 IQ○○(H○.○実施)
知的発達の遅れが見られる
教研式知能検査 ISS○○

日常生活の姿

【見通し】
・「５時間目は１年の教室に行くの」と，繰り返し担任に言う。担任が「そうだよ」と答えるとうなずく。
・予定黒板に［２時間目…手紙を書こう］と書いてあったのを見て，担任に「手紙セット持ってきていい」と尋ねる。
・プレゼント用のクッキーにチョコペンで文字を書く。担任が「やりたい人」と聞くと黙っている。担任が「お」の字書くのをじっと見ている。担任が「続きを書いてみますか」と尋ねると，「失敗する」と言いながらゆっくりと書き始める。担任とクラスメートがサトミさんが「じょうず」と言うと，にっこり笑い，残りの文字を書く。
【主体性】
・担任が「明日はカナコさんが家で作ったというカップケーキをみんなで作ろう」と言うと，翌日作り方を紙に書いてくる。
【人とのかかわり】
・冗談を言ったときに担任が聞き逃すと「ちゃんとつっこんでよ」と要求する。
・金魚の水槽の机を揺らしたサトミさんに「金魚たちが驚いちゃうよ」と言う。
・団子の作り方を教えてくれた地域の方に，どうしたら同じ大きさの団子を作ることができるのかを，自分で書いた文章を見ながら，ゆっくり大きな声で質問する。

可能性の芽

・大人（担任・保護者）に繰り返し確認したり大人の姿を見たりして，見通しのもてた活動には自ら取り組む。
・文字や言葉による情報があると先の見通しをもち，必要な物を自分で用意することができるだろう。
・一度うまくできて，担任や特別支援学級のクラスメートから称賛された活動には自ら取り組むことが多い。
・家族・担任・特別支援学級のクラスメート・いっしょに活動したことのある大人などに対しては，やりたいことや分からないことについて直接言葉で伝えたり，文章に書いて読んで伝えたりする。

願い

【本人の願い】見通しをもって活動したい。自分のペースで，親しい友だちや先生と一緒に活動したい。毎日の学習や部活動を がんばりたい。
【保護者の願い】少しずつでよいので，人とのかかわり（特に同学年の友だち）が広がっていってほしい。
【教師の願い】自分で考えて判断して行動する力が伸びていってほしい。自分の思いを訴れるような人間関係の輪を広げてほしい。
【卒業後の姿】
・Ｎ特別支援学校高等部かＳ特別支援学校高等部に進学し，一人で電車やバスなどを使って登校する。
・陸上競技や卓球などのスポーツを通して，様々な人とのかかわりを広げていく。
・休日はバスや電車を利用して友だちと外出し，買い物をしたり公共施設を利用したりして楽しむ。

教育課題

・複数の工程がある活動に取り組む際，自分で工程表を作成し，それを手がかりに一人で区切りまで活動することができる。
☆質問や感想，伝えたいことなどを初対面の大人や通常の学級の友だちに向けて文章に書いて表す。

指導の方向

・カナコさんが活動に見通しをもてず迷ったときに，自分で一緒に用意する。
・カナコさんが自ら活動に取りかかる，見通しを持って行動するなどしたときには，その場で称賛する。
・活動の中で，カナコさんの必要感に応じて新しい大人と出会う。
・活動のはじめは，カナコさんがいつでも質問ができる位置に座るように声がけしたりする。

週案簿にはっておき，普段から見直せるようにするのも，活用の一つの工夫です。

カナコさんの可能性の芽

・**文字や言葉による情報**があると，先の見通しをもち，必要なものを自分で用意することができるだろう。

可能性の芽の条件を踏まえて教育課題を記述します。

教育課題

・複数の工程がある活動に取り組む際，**自分で工程表を作成し，それを手がかりに一人で区切りまで活動する**ことができる。

Do 授業では

◎　単元の目標

【全体の目標】

・本単元の活動にかかわる多くの方に，自分の気持ちを手紙に書いたり，直接言葉で伝えたりする。
・種類の違う団子を手順に沿って作ることができるようになる。

【カナコさんの目標】

・新しい団子の**レシピを自分で作り，活用しながら**，教師に確認しないでも一人で作れるようになる。

○　本時案

（１）主　眼

【全体のねらい】

新作団子の試食会の準備をしてきた生徒たちが，先生方に新作団子を試食してもらう場面で，注文を取って団子を作り，感想を聞いたりビデオで振り返ったりすることを通して，開店に向けての目標を発表することができる。

【カナコさんのねらい】

カードを活用して，先生方に団子の説明と試食のお願いをしたり，先生方に感想を聞いたりすることができる。

個別の指導計画を活かして授業を構想します。

段階	学習活動	○…予想される反応　△…支援　☆…評価
導入	1　先生方に団子の説明と試食のお願いをする	○先生方に団子作りをしている理由を説明し，評価をお願いするだろう。 △**お願いの文章を書いたカード**を用意する。
まとめ	7　開店に向けての目標を発表する	△先生方の意見に合わせて撮影したビデオを流し，よかったところや課題を言葉で伝える。

可能性の芽を生かした支援を考えます。

活動中や授業の終わりにねらう姿が見られたら評価をします。教師はとった支援が有効だったかどうかで振り返ります。

Action 見返しでは

授業の評価を基に個別の指導計画を見返します。行った支援を評価し，個別の指導計画を改善します。

Check 評価では

自己評価カードを活用した，本人の評価例

カナコさんのがんばり表　○月　○日（○曜）

1	先生方にカードを使って注文の取り方を説明をする	◎
2	先生方から注文を取る（種類・数）	◎
3	注文を集計する	◎
4	注文通りに団子を作る・作ったら数を確認する	◎
5	「どうぞ」と言いいながら，注文通り団子を配る	◎
6	先生方に味の感想を聞く	○

感想
先生から

本人も評価を行うと自己肯定感が高まります。

個人記録による教師の評価例

「本時のねらいを達成できた。お願いの場面では**カードを時々見ながら説明をし**，大きな声でお願いを言うことができた。**文字による視覚支援は有効である。**」

（４）「個別の指導計画」の活用及び引き継ぎ

「個別の指導計画」を，支援会議や保護者懇談会で活用していきましょう。そして，授業や活動，日常生活を通して見えてきた「新たな育ち」や「指導の方向」を，「個別の指導計画」に加えていきましょう。

また，学年会や教科会において，「個別の指導計画」を基に，児童生徒の育ちや教師の支援について確認し合い，日々の授業や学校生活の授業や支援に生かしていきましょう。

学期末には，関係職員や保護者とともに，児童生徒の育ちを確認し合う中で，「個別の指導計画」を見返し，必要に応じて，加除修正をして，より実効性のある「個別の指導計画」にしていきましょう。

学年末には，関係職員や保護者とともに，「個別の指導計画」を基にして児童生徒の１年間の育ちを振り返りましょう。そして，「可能性の芽」，「教育課題」，「願い」，「支援の方向」などを評価して改善していきましょう。

進学する際には，「個別の指導計画」や「プレ支援シート」などを使用して，精選した情報を伝え，引き継ぎをしていきましょう。

注）進学などで「個別の指導計画」を学校外に出す場合には，保護者の了解を得るなど，扱いは慎重に行いましょう。